

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる				関係課	障がい福祉課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
1	障がい福祉サービスの充実	5	1	日常生活支援の充実	B	障害者総合支援法に基づくサービスの充実 地域生活支援事業の充実 レスパイトケア事業の充実						障害者総合支援法に基づくサービスの利用者数は増加している。レスパイトケア事業についても、3事業所で医療的ケアが必要な市民の受け入れを行ったことで重症心身障害児・者と、介護する家族の精神的及び身体的な負担を軽減することができた。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	「何が利用できるのか分からない」値の改善		33.7% (H29)	-					20%以下 (R7)			
			2	地域で自立した生活の促進	A	おうちに帰ろうプロジェクトの推進 精神障がい者にも対応した包括システム推進						コロナ禍で病院訪問、外出等できなくなり、停滞しかけたが、リモート面会等や関係者間の会議は継続し、それぞれの課題を整理し役割分担をしながら、2名の社会的入院をしていた精神障害を持つ方が退院することができた。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	社会的入院患者の退院		0人/年 (R1)	2人/年 (R2)					1人以上/年 (R7)			
			3	居住の場の確保	A	グループホームの充実 入居支援の充実						新しいグループホームが2か所11名分定員増加し、待機者数が減少した。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	今すぐ利用を希望している障がい者のグループホーム待機者なし		5人 (R2.12)	2人 (R3.12)					0人 (R7)			
			4	地域生活拠点等の整備の推進	B	関係機関との連携と情報共有の充実 緊急時連絡体制の充実 短期入所先の確保						障がい者基幹相談支援センターを中心に地域生活拠点等の整備を行った。緊急時の連絡体制、短期入所先の確保2箇所を整備できた。			
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値							
KSF	緊急時未対応者		0人 (R1)	0人 (R2)					0人 (R7)						
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値							
KPI	アンケート調査「自宅・グループホームで暮らしたい」人の割合		70.9% (H29)	-					80.0% (R7)						

課題及び次年度の方向性

障がい者の相談支援体制についての取り組みはおおむね順調に進捗しているため、今後も増加が見込まれる対象者に継続した支援が行えるよう、対応できる人員を拡充し支援体制を維持する必要がある。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる				関係課	障がい福祉課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
2	相談体制の充実	4	1	総合的な相談支援体制の強化	B	障がい者基幹相談支援センターの充実 相談支援部会の充実 様々な関係機関との連携と情報共有						障がい者基幹相談支援センターが主体となり、部会を開催することができた。市内の障がい福祉サービス事業者や相談支援事業所、学校関係者ともワーキングチームで情報共有を行い、連携の推進を図った。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			相談支援部会を年3回実施する		3回 (R1)	3回 (R2)						3回以上 (R7)			
			2	自己決定のための配慮した情報提供の推進	A	障がい特性に配慮した情報提供の充実 意思疎通支援事業の充実 補装具、日常生活用具の利用促進						日常生活用具の品目追加と要件緩和を行い、点字ディスプレイや、視覚障害者用血圧計などの利用促進を図ったことで、これまで対象外だった日常生活用具の給付を受けることができ、生活上の障害が軽減され、日常生活が送やすくなった。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
「何が利用できるかわからない」値の改善		33.7% (H29)	—						20%以下 (R7)						
3	障がい者の権利擁護の推進（差別解消、虐待、権利擁護・成年後見制度）	B	障がい者虐待の防止への取り組みの推進 障がい者の権利擁護の協議の場の充実 成年後見制度利用の促進						R3年度2件の障がい者虐待通報を受け、対応した。担当課での対応で解決したため、紛争解決のための権利擁護部会での協議には至らなかったが、報告をすることで、関係者に現状を把握していただき、虐待への備えとなった。成年後見制度については、後見利用支援、報酬援助ともに法人後見を行う事業者とも連携を図るとともに、事業実施をし、後見人等の報酬を保障することが制度の促進となっている。						
KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
障害者施策推進協議会権利擁護部会での協議		年1回 R1	年1回 R2						年1回以上 (R7)						
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
	どこでどんな相談ができるかわからない」人の減少		23.5% (H29)	—					10.0% (R7)						

課題及び次年度の方向性

市内事業所等との連携は順調に実施できたので、継続で実施し、支援を深めたい。障がい特性に配慮した情報提供については、コロナ禍によるマスク着用で口元が見えないなど、聴覚障害者の情報保証に課題があり、障がい者のコミュニケーションの普及啓発の推進を要する。

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	8	自立した生活を送ることができる				関係課	障がい福祉課	
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）		
3	雇用・就労支援の充実	4	1	障がい者の就労機会の充実	A	障がい者就労支援センター事業の充実 就労移行・継続・定着等支援事業の利用促進 特別支援学校卒業生への進路支援 障がい者就職説明会の開催 就労に関する情報提供の充実					令和2年から入間東部福祉会に委託し、利便性の高い鶴瀬駅東口に近い場所で開所した。コロナ禍にもかかわらず、相談件数の増加を図ることができた。また、就労支援会議を障がい者就労支援センターが主体的に行うことで、課題の認識が促進された。特別支援学校との進路連絡会や相談支援部会ワーキングチームでも他機関との連携を図れた。これらにより、障害者の就労者数の増加及び就労の定着が図れた。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			KSF	就労支援センターの相談件数	538人/年 (R1)	2248人/年 (R2)					1,087人/年 (R7)		
			2	障がい者の雇用拡大の推進	B	民間企業への啓発 広域的な就労支援ネットワークの充実 障害者優先調達の推進					障がい者就労支援センターにおいて、企業人事担当者との面接等を実施した。優先調達法の推進においても、障がい者施設からの物品等の調達実績が、令和元年度約240万円、令和2年度約500万円、令和3年度約635万円と伸びている。		
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
KSF	就労支援センター登録者の就労者数の増加	133人 (R1)	159人 (R2)					266人 (R7)					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	就労支援センター登録者の一般就労と福祉的就労者数の増加		延べ182人 (R1)	延べ195人 (R2)					延べ364人 (R7)				
課題及び次年度の方向性													
相談者数や調達実績等大きな伸びを見せた。個別の相談は充実したが、民間企業への啓発や就職先の拡大については課題であるため、協議の場に挙げ、支援の方法等検討したい。													

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう				関係課	障がい福祉課	
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）		
1	意識啓発の充実	3	1	あいサポート運動の推進	B	あいサポーター研修の実施 企業認定におけるあいサポーター研修 (差別解消法の普及啓発)					新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加人数を半数にするなど制限して開催する時があったが、広報富士見やホームページ等の発信により受講する人、学校における研修等により、令和3年12月末での受講者は、695人であった。大型商業施設に周知啓発チラシを配布したものの、企業認定は2団体となった。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			KSF	あいサポーター数	6,762人 (R1)	7,111人 (R2)					12,397人 (R7)		
			2	手話の理解及び普及	B	手話に関する講演会の実施 手話体験講座 手話を学ぶための福祉教育の実施					昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催した講座が限られたが、今年度は夜間開催講座のスケジュールを柔軟に見直しながら開催し、令和3年12月末時点受講者数は49人となっている。		
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
KSF	手話体験講座の受講者数	135名(R1)	153名 (R2)					335名 (R7)					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	障害者差別解消法について知っている		30.9% (H29)	27% (R2)					50.0% (R7)				
課題及び次年度の方向性													
<p>どちらの取組も「研修」であるため、新型コロナウイルス感染症の影響により、これまで行ってきた対面での開催は大変厳しくなっている。このことに対応できるよう、オンライン研修やYouTube配信、DVD等を用いて研修ができる環境づくりを整備したが、デジタル化に慣れない市民も参加できるよう、受講方法の選択肢を広げつつ、感染対策を施した対面研修も大切にして、今後の受講者増を図る。また、令和3年5月に障害者差別解消法が改正となり、大型商業施設や商工会を通じて啓発チラシは配布したが、配布だけでは関心をもってもらえず、直接店舗に向いて説明したところ、認定団体の申請があったため、地道に進めるように努力し団体数の増加を図る。</p>													

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう				関係課	障がい福祉課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
2	交流の促進	3	1	障がいのある人との交流	B	あいサポート運動の普及・啓発 富士見市手話言語条例の推進					あいサポーター研修やあいサポイベント、手話体験講座においては、講師が障がい当事者であることから、直接対話できることが貴重な体験になっており、大変勉強になる、困ったときは助けたい、何かの役に立ちたいとの感想を多くもらっている。障がい当事者も、街なかで手話のあいさつが嬉しい、白杖に気づいて声掛けてもらえてうれしいとの声がある。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
				あいサポイベントの実施		1回 (R2)	1回 (R3)					継続 (R7)		
			2	当事者参画の推進	B	富士見市障害者施策推進協議会の充実 富士見市障害者施策推進協議会における部会活動の充実 障がい者の文化芸術機会の推進					当事者が参画する意義は、当事者のニーズをより反映した政策・施策にできるという点にあるため、協議会については、これまでと同様に、身体障がい、視覚障がい、聴覚障がいの当事者委員が各1名づつ委嘱となり、障がい福祉に関わる事業所の代表者とともに、共生社会のまちづくりについて活発な意見交換がなされ、障がい当事者が直面する現実的課題を直視しつつ、実質的議論を行える場となっている。			
KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	当事者委員が参画する会議・事業の開催回数		6回 (R2)	6回 (R3)						7回 (R7)				
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	障がいのある人と交流（啓発イベントやボランティアに参加）したことがある人の割合		23.7% (R2)	43.6% (R3)					30.2% (R7)					
課題及び次年度の方向性														
障がい者差別の解消については、「障がいのある人と障がいのない人との直接の交流の場」を創ることを通して、障がいへの理解を深め、障がいのある人に適切な配慮ができる人が増えるものと認識している。よって、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での交流や対面会議が困難な場合があるため、事業の中止は避け、オンライン等での開催が可能となるように努める。また、文化芸術機会についても、当事者参画により意見をもらいながら開催できるよう進める。														

計画	基本計画	分野	6	障がい福祉	基本政策	9	ともに生き、ともに支えあう	関係課	障がい福祉課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組			R3年度の成果及び効果（見込）			
3	暮らしやすい環境整備	4	1	施設などのバリアフリーの推進	B	多目的トイレなどの整備			多目的トイレは、車いすの利用やユニバーサルシートの設置などから、十分なスペースが必要であり、建設年が古い施設に整備することは困難であるため、現状の5ヶ所のみとなる。今後、びん沼自然公園の整備により、多目的トイレが設置される予定。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
			多目的トイレ等の普及の推進		5ヶ所 (R1)	5ヶ所 (R2)					6ヶ所 (R7)	
			2	情報提供環境の充実	A	電話リレーサービス遠隔手話通訳サービスの充実 音訳サービスの充実 点訳サービスの充実			遠隔手話通訳サービスについては、障がい福祉課のタブレットのみが富士見市社会福祉協議会とつながり対応してきたが、今回、各課長職に貸与されるとともに本庁舎内のwifiが整備されたことにより、各課において直接的に対応できるようになった。また、各課における市民あて発送物についても、障がい福祉課内の点字プリンターの活用が増え情報提供のバリアフリー化が高まっている。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値
			タブレットの普及		19台 (R1)	149台 (R2)					25台 (R7)	
3	防災・防犯体制の強化	B	ヘルプカード・災害時援助用バンダナの配布 災害時障がい別対応マニュアルの作成 避難行動要援護者登録			ヘルプカードは、窓口・広報・市HPで周知し、令和2年度末に2,099枚のところ、令和3年度12月末時点で226枚の追加配布、災害時援助用バンダナは126枚のところ、10枚の追加配布となっている。災害時障がい別対応マニュアルは、障害者施策推進協議会の専門部会で協議中。						
KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
災害時に助けてくれる人がいない		37.1% (R1)	40.5% (R2)					18.0% (R7)				
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
「災害時、避難所の設備や必要な支援が受けられるかどうかについて不安を感じる割合 いつ時点か		29.4%	31.0% (R2)					15.0% (R7)				
課題及び次年度の方向性												
<p>防災・防犯体制の強化については、令和2年度に実施した障がい福祉についての実態調査結果から当事者の支援の充実が特に求められており、まずは、啓発の第一歩目として、障害者施策推進協議会権利擁護・コミュニケーション部会で協議した、災害への備えの意識づけとする「啓発チラシ」を令和4年度に配布を開始する。また、令和4年度については、災害時障がい別対応マニュアルの作成を目指し、同部会において協議を進め、災害のリスクの減少に努めるとともにKSFを目標値に近づける。</p>												

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	交流センター、保育課、子ども未来応援センター健康増進センター、産業経済課、農業振興課、学校教育課、資料館、学校給食センター、公民館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
1	健康的な食生活の推進	3	1	「食生活からの健康づくり」の推進	B	食育教室等の実施 特定保健指導（栄養）の実施 食生活に関する情報発信					新型コロナウイルス感染症の影響により乳幼児から高齢者を対象とした食育教室等の事業を中止したのもあったが、多くの事業は感染症予防対策を講じて開催し、最終的に市民への健康的な食生活の普及啓発につながった。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	食育教室の実施		12回（R1）	6回（R2）					継続		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
2	地域における食育活動の推進	B	地域における食育活動支援 食生活改善推進員の養成・活動支援					食生活改善推進員の養成講座を2年に1回の実施にしたため、令和3年度は実施予定であったが、参加者が集まらず中止した。一方で、食生活改善推進員の食育活動の支援として、広報や公共施設にレシピを掲載（掲示）し（5回×8ヶ所）、市民への健康的な食事の普及啓発につながった。 子ども食堂については、活動中の6団体に対して支援を行い、子ども食堂の継続につながった。						
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	地域における食育活動の支援回数		57回（R1）	53回（R2）					67回（R7）					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	バランスのよい食事をしている人の割合		56.7%（R2）	—					70%（R7）					
課題及び次年度の方向性														
<p>新型コロナウイルス感染症の影響により調理実習を含む事業の実施が困難であったため、引き続き、ICT等を活用した食育教室等を実施していく必要がある。しかし、情報弱者に対しても食育を推進していく必要があるため、対面形式とICT等を活用したハイブリット型の食育を目指していきたい。また、地域における食育活動を支援できるよう各団体と連携を深めていくことが必要である。</p>														

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	シティプロモーション課、文化・スポーツ振興課保育課、子ども未来応援センター、健康増進センター、都市計画課、学校教育課、公民館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
2	運動習慣の推進	3	1	運動機会の提供	B	ヘルシーウォークの実施 健康マイレージの実施 各種イベント等の情報発信					新型コロナウイルス感染症の影響によりヘルシーウォーク大会は中止となった。また、健康マイレージ事業においては、参加者数が2627名（令和3年12月31日現在）と昨年度末より291名増加し、コロナ禍において運動機会の創出に寄与した。			
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
			健康マイレージの参加者数		1,663人 (R1)	2,336回 (R2)						3,700人 (R7)		
			2	健康づくりのための運動の推進	B	健康づくりのための運動教室の実施 特定保健指導（運動）の実施 健康づくりのための情報発信					新型コロナウイルス感染症の影響により乳幼児から高齢者を対象とした運動等の事業を中止したのもあったが、多くの事業は感染症予防対策を講じて開催することで、コロナ禍において運動機会の創出に寄与した。また、特定保健指導においては、希望する参加者に総合体育館ジム利用券（8回分）または健康マイレージの歩数計のいずれかを配布し、運動習慣づくりを推進した。			
KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
運動教室の実施		10回（R1）	6回（R2）						継続					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	運動習慣がある人の割合		20～64歳男性 20.8%	—						32.0%				
			20～64歳女性 17.4%							35.0%				
			65歳以上男性 32.4%							60.0%				
			65歳以上女性 26.6%							50.0%				
		(R2)	(R7)											
課題及び次年度の方向性														
健康に関するアンケート調査によると、運動習慣がある人の割合が減少した。これは、新型コロナウイルス感染症で外出自粛が続いたことが一つの要因として考えられる。引き続き、制限のある状況下においても市民が継続的に運動をできる機会や運動に関する情報を提供していく必要がある。														

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	保険年金課、保育課、子ども未来応援センター、福祉政策課、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、公民館
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）	
3	健康の自己管理の推進	3	1	健康の自己管理の普及啓発	B	各種健診の実施 健康教育・健康相談の実施					乳幼児から高齢者それぞれの健康状態や生活習慣に合わせた健診、健康教育や健康相談を実施し、疾病の予防や早期発見につながることができた。	
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			KSF	健康教育・健康相談の実施	36回（R1）	15回（R2）					継続	
			2	かかりつけ医に関する普及啓発	B	医師会と連携した普及啓発 健康教育・健康相談の実施					新型コロナウイルス感染症や、ワクチン接種について相談があったケースについて、医師会の協力を得て医療につながったケースがあった。	
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
KSF	普及啓発回数	2回（R1）	3回（R2）					10回（R7）				
3	がん対策	B	3	がん対策	B	がん検診の実施 予防に関する普及・啓発 禁煙支援					節目年齢に個別案内通知を送付しているが又コロナ禍の影響もあり受診率が伸びていない。しかし、乳がん検診の受診料を半額にしたこと、クーポン券の対象者を増やしたことで、受診の問合せ、申し込みが多くあった。また、受動喫煙防止や禁煙支援の取組として18歳未満の子ども等と同居する喫煙者に対して、禁煙外来の治療費の一部補助を開始した。	
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
			KSF	肺がん検診、大腸がん検診、胃がん検診、乳がん検診、子宮頸がん検診	32.4%、 28.0%、 2.7%、 11.2%、 16.3% (H30)	31.0%、 25.2%、 2.7%、 10.7%、 17.9% (R1)					50.0% 50.0%、 13.3% 20.0%、 17.7% (R7)	
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KPI	かかりつけ医を持っている人の割合	61.4%（R2）	—					71.1%（R7）				
課題及び次年度の方向性												
<p>コロナ禍の影響もあり、健康相談の機会が減っているが、継続して普及啓発することは必要。また、ICT等を活用し、必要としている人の支援ができるように手法を検討していく。健康管理のきっかけにもなるがん検診等の受診者数を増やすため、節目年齢に送付している個別案内の通知を、受診に関心が持てるように内容を検討する。</p>												

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	人権・市民相談課、子ども未来応援センター、福祉政策課、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、教育相談室		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
4	こころの健康の向上	3	1	こころの健康意識の向上	B	こころの健康についての普及・啓発 健康相談（こころの相談含む）の実施 早期発見・早期治療への取り組み					学齢期、成人期、子育て世代期、高齢期それぞれを対象にこころの健康についての普及啓発を行い、各ライフステージにおける関心度を高めることができた。 発達障害の理解についての講座を実施。精神科医師による相談日を毎月実施。また、保健師、精神保健福祉士、社会福祉士による相談を随時実施している。保健所・医療機関とも連携し、入退院患者について支援を実施した。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	健康相談（こころの相談含む）の実施		104回 (R1)	53回 (R2)					継続 (R7)		
			2	自殺予防対策	B	自殺の問題に関する理解の促進と取組の推進 自殺の背景となる要因の軽減のための取り組みの推進 自殺の原因、背景に対応した支援体制等の整備					経済的理由や介護・子育てによる悩みなど内容に応じ相談を受けるほか、複合的な悩みを抱える人に対しては各課・関係機関が連携を図り、医師やケースワーカーによる相談支援を実施し、悩みの軽減につながった。また、東武鉄道と協働で青色LED照明を3箇所を設置し、市内すべての踏切と駅構内への設置完了を広報等で周知を図ることで、飛び込み自殺防止に関する啓発につながった。			
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	自殺率を平成27年比30%以上減少		16人 (R1)	20人 (R2)					13人以下 (R7)					
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	相談できる人や場所がない人の割合		29.5% (R2)	—					21.0% (R7)					
課題及び次年度の方向性														
<p>こころの健康に関する相談については、NPO法人等民間事業者も相談支援を実施しており、医療機関が市役所ではなく、直接事業所と連絡をすることが多くなった。現在、相談支援事業所と定期的に情報交換の定例会議を実施し支援が必要な市民の把握に努めているが、今後さらに連携等を要するため、継続していくとともに、普及啓発を促進する。また、新型コロナウイルス感染症による生活環境の変化や不安があると考えられ、令和2年の自殺者が20人と増加した。すべての市民を対象に、教育・啓発の推進、相談・支援体制の整備の充実、地域で安心して暮らせる環境整備を図る必要がある。</p>														

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	保育課、子ども未来応援センター、みずほ学園、高齢者福祉課、障がい福祉課、健康増進センター、学校教育課、学校給食センター		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組					R3年度の成果及び効果（見込）			
5	歯と口の健康づくり	3	1	年齢に応じた口腔ケアの普及啓発	B	歯科口腔教室の実施 オーラルフレイルの普及啓発 歯科口腔に関する情報提供 8020運動などの推進					新型コロナウイルス感染症の影響により乳幼児から高齢者を対象とした歯科口腔教室等の事業を中止したのもあったが、多くの事業は感染症予防対策を講じて実施し、各ライフステージにおいて、口腔ケアの普及啓発につながった。			
			KSF	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値	
				歯科・口腔教室の実施回数			40回 (R1)	5回 (R2)						45回 (R7)
			2	歯科健診受診を促進する環境づくり	B	歯科健診受診の普及啓発 歯科健診の実施					節目年齢の方に検診の案内を個別に送付したためか、新型コロナウイルス感染症の影響により実施期間が1か月短かったが、受診者数は微増した。			
KSF	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	成人歯科健診受診者数			301人 (R1)	312人 (R2)						530人 (R7)			
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
	何でも噛んで食べることができる人の割合			77.0% (R2)	—						82.8% (R7)			
課題及び次年度の方向性														
新型コロナウイルス感染症の影響もあり、歯科保健に関する事業が縮小されている。コロナ禍でも歯と口の健康づくりができるよう継続して啓発する。														

計画	基本計画	分野	7	健康づくり	基本政策	10	心身ともに満たされた状態で過ごすことができる				関係課	保険年金課、子ども未来応援センター、高齢者福祉課、健康増進センター、公民館		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
6	健康を支える環境整備	3	1	医師会等職能団体との連携強化	B	医療情報の提供手法・媒体・回数の改善・実施						新型コロナウイルス感染症に関連して、ワクチン接種や感染予防について医師会と連携を図ることで、スムーズに接種がすすんだ。また、医療情報について、ホームページや広報で随時周知し、普及啓発につながった。		
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
				医療情報の提供機会の充実		実施	実施						継続	
			2	町会等地域団体との連携強化	C	地域健康相談の実施 地域関係団体とのネットワーク強化						新型コロナウイルス感染症の影響により小売店等に出向く出張地域健康相談については中止したが、町会等からの依頼の健康相談については感染対策を講じながら実施し、健康に関する普及啓発につながった。また、地域関係団体から成る健康づくり審議会を1回開催し、年度末まであと1回開催する予定である。審議会を開催したことにより、関係団体間の交流や意見交換の場を創出することができた。		
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
				関係団体との会議の開催		30回/年 (R1)	9回/年 (R2)						36回/年 (R7)	
			3	感染症対策の充実	B	予防接種事業の実施 一般感染症予防の普及啓発 備蓄品の管理						新型コロナウイルス感染症の予防対策を実施することで、他の感染症のまん延防止につながっている。また、新型コロナウイルスワクチンの接種が実施されたことにより、予防接種に関心を持つ方が増えたためか、R3年度は目標値である95%以上を達成できた。		
			KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値		
				予防接種接種率の向上		M R ワクチン1期89.3%、2期90.2% (R1)	M R ワクチン1期102.0%、2期95.5% (R2)						どちらも95%以上 (R7)	
			4	国民健康保険・後期高齢者医療保険制度の安定的な運営	A	医療費の適正化に向けたレセプトチェック ジェネリック医薬品に切り替えた場合の差額通知発送						目標値である80%を達成したことにより、医療費の削減が見込め制度の安定的な運営を推進できた。		
KSF	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	ジェネリック医薬品の使用割合		77% (R1)	80.5%(R2)						80% (R7)				
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	医療施設の情報が少ないと感じる人の割合		16.5% (R2)	—					12.4% (R7)					
課題及び次年度の方向性														
<p>関係団体との連携については、必要最低限となっているが今後も継続して実施していく。 新型コロナウイルス感染症の影響もあり、感染予防対策については関心が高まっている。今後も感染予防対策が継続できるように、広報やホームページだけでなく、プッシュ通知などICTを活用した普及啓発を検討する。</p>														

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる				関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）		
1	幼児からスポーツに親しむ環境整備	4	1	親子で参加できるスポーツ機会の充実	A	市内スポーツ施設での親子向けイベントの充実推進のための啓発活動						市民総合体育館指定管理者の自主事業を中心に、フットサル、セパタクロー、HIPHOP等様々な事業に取り組んだ。逆上がり教室など新たな取組みも行い、機会充実を図っている。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	子ども～未成年向け教室数 (市民総合体育館指定管理者自主事業)	6事業 (R元)	8事業(R2)					7事業 (R7)			
			2	子ども達がスポーツできる場所の充実	C	屋外スポーツ施設の整備機能拡充、安心安全対応の検討 学校体育施設開放事業充実の検討 近隣自治体、民間施設等の有効活用 都市公園等でのスポーツ活動の推進						令和4年度からの夏季における子どもを中心とした学校プール開放及び運動公園の管理方法や調整を進めている。新たにスポーツ振興庁内検討委員会を設置し、第2期スポーツ推進計画 (R4～R8年度)の策定や今後のスポーツ施設のあり方等について検討を行い全庁的な連携を図っているが、少年団登録団体数は減少している。		
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	県スポーツ少年団登録団体数	15団体 (R元)	11団体 (R3)					16団体			
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	子どもがスポーツを好きという割合		63.4% (H27)	53.0%(R2)					70.0%(R7)					
	課題及び次年度の方向性													
<p>新型コロナウイルスの影響で十分に事業等が実施できている状況ではないが、東京2020大会の開催なども受け、ソフト・ハード共にニーズが多様化している。これらのニーズを的確に捉え、気軽に参加できる体験機会やオリパラレガシーによる学校との連携を通して、スポーツが習慣化する好循環を生み出せるよう、引き続き取り組んでいく。</p>														

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる				関係課	文化・スポーツ振興課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
2	働く世代へのスポーツの機会の提供	2	1	働く世代に対する啓発活動	B	広報「富士見」での啓発や健康セミナー等の開催 スポーツ健康イベントの開催						市民総合体育館自主事業では、ヨガ体験教室等を夜間に行うなど、働く世代が参加しやすい取り組み行ってきたが、新型コロナウイルスの影響もあり、イベントの実施は難しい状況になっている。			
			タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	市民健康増進スポーツ大会の参加者数		5,771人 (R元)	1,948人 (R2) 大会一部中止					6,000人 (R7)			
			2	働く世代がスポーツしやすい環境づくり	C	屋外スポーツ施設の整備機能拡充、安心安全対応の検討 新たな夜間スポーツ施設の整備の検討 個人利用、多目的施設の充実						令和4年度からの運動公園の管理方法について調整を進めている。新たにスポーツ振興庁内検討委員会を設置し、第2期スポーツ推進計画（R4～R8年度）の策定や今後のスポーツ施設のあり方等について検討を行い、全庁的な連携を図っているが、利用者数は前年に比べ減少している。			
タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	運動公園の利用人数		55,666人 (R元)	38,316人 (R2)					57,000人 (R7)						
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	20～59歳の週1回以上スポーツをする人の割合			22.4% (H27)	33.9% (R2)					30.0%(R7)					
課題及び次年度の方向性															
<p>事業面では新型コロナウイルスを踏まえた上で、参加しやすい環境をつくる必要課題となる。競技体験、健康づくり等様々な内容を幅広い日程、会場設定等により、気軽に参加できるよう工夫をしていきたい。施設面においては、数的、機能面共に不足していることが課題となる。特に屋外スポーツ施設が近隣自治体に比べて少なく、整備機能の拡充について検討を進めていく。</p>															

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる				関係課	文化・スポーツ振興課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
3	高齢者に合わせたスポーツ 機会の充実	3	1	健康・体力づくりの活動機会の充実	B	医療機関・大学等の連携によるプログラムの開発 スポーツ健康イベントの開催 近隣自治体、民間施設等の有効活用						健康増進センターでは、東京大学高齢者社会総合研究機構によるプログラムを用いて、「フレイルチェック測定会」を開催するなどして、市民の健康づくりへの取組の一助となった。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	体力測定等の事業実施数		1回（R元）	3回（R2）					2回（R7）			
			2	高齢者向けスポーツの充実	B	地域におけるスポーツ活動施設の機能拡充・整備検討 早朝から利用できるスポーツ活動施設の機能拡充や整備の検討 健康づくり交流施設の整備の検討						新たにスポーツ振興庁内検討委員会を設置し、第2期スポーツ推進計画（R4～R8年度）の策定や今後のスポーツ施設のあり方等について検討を行い、全庁的な連携を図っている。令和3年度は新型コロナウイルスの影響もあったが、ラジオ体操教室を一地区で開催したほか、健康増進センターでも運動を通じた健康づくり教室等を展開している。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	ラジオ体操教室の参加者数		142人（R元）	0人（R2） 事業中止					150人（R7）			
3	地域に合わせたスポーツ機会の創出	B	スポーツ推進委員との協働による地域事業の実施 地域スポーツ事業の推進 地区体育祭の支援						新型コロナウイルス感染拡大の影響で令和2年度は事業を行うことができなかった。令和3年度も地区体育祭はすべて中止となったが、スポーツ推進委員による地区事業は11小学区中5小学校区で開催することができた（ポッチャ、バトテニス等）。徐々に市民が地域で身近にスポーツに触れる機会を設けることができている。						
タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値							
KSF	スポーツ推進委員地区事業の参加人数		206人（R元）	0人（R2） 事業中止					230人（R7）						
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
	60歳の週1回以上スポーツをする人の割合		55.6%（H27）	42.7%（R2）					60.0%（R7）						
課題及び次年度の方向性															
<p>スポーツに関する市民アンケート結果からも高齢者は健康づくりへの関心が高まると捉える。併せて地域コミュニティの醸成につなげていくことが重要である。健康づくりの取組みとしてオンラインで参加できる教室等を開催していきたい。（オンライン開催による地域コミュニティの醸成手法については、全国的にも検討段階）</p>															

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	11	スポーツで元気になる				関係課	文化・スポーツ振興課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
4	障がいのある人がスポーツを楽しめる機会の充実	4	1	障がいのある人がスポーツを体験できる機会の充実	B	障がい者向けスポーツイベント・体験教室の開催 障がい者スポーツ活動の支援 等						東京2020大会による反響で、ポッチャへの関心が高まり、特別支援学校・学級をはじめ、中学校授業、放課後児童クラブ等への指導要請があり、スポーツ推進委員を中心に対応をしている。障がい者スポーツへの理解、取組の一助となっている。			
			タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	障がいがある人もない人も楽しめる障がい者スポーツ体験教室の開催			2回（R元）	3回（R2）					3回（R7）		
			2	障がい者スポーツ環境の充実	B	スポーツ施設のバリアフリー化の充実と利用促進 障がい者スポーツ備品の充実						新たにスポーツ振興庁内検討委員会を設置し、第2期スポーツ推進計画（R4～R8年度）の策定や今後のスポーツ施設のあり方と共に障がい者スポーツについても検討を行い、全庁的な連携を図っている。			
			タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	市内スポーツ施設の障がい者スポーツの登録団体数			2団体（R元）	2団体（R2）					3団体（R7）		
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	障がい者スポーツを体験したり見たことがある人の割合			—	67.4%（R2）					40.0%（R7）					

課題及び次年度の方向性

東京2020大会後、ポッチャの指導に関する要請が学校（2校）、放課後児童クラブ、公民館からあり、スポーツ推進委員を派遣するなどにより、障がい者スポーツへの関心が高まっており、特にポッチャのニーズが高い。障がいの有無にかかわらず、障がい者スポーツをみんなのものとして気軽に取り組めるよう、地域での普及や指導者の養成などに取り組んでいく。

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する				関係課	文化・スポーツ振興課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
1	「する」（機会の充実）	2	1	一流選手等から学ぶ機会の創出	B	体験教室等の実施 子ども☆スポーツ大学の実施 実施周知の充実 オリパラ・ホストタウンに関連する競技体験機会やイベントの開催（国際理解文化等含む）						子どもスポーツ大学において、パラリンピックメダリストや元プロ野球選手、元日本代表選手を講師として開催するなど、子どもを中心にスポーツへの関心や憧れを持つ機会をつくった。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	一流選手等を招いての教室・イベント等の実施事業数	7事業(R元)	0 (R2) 事業中止						8事業(R7)			
			2	好きな時に好きなスポーツを楽しめる環境整備	B	地域におけるスポーツ活動施設の設置、機能拡充の検討 学校体育施設の活用 多様なスポーツニーズへの対応						新たにスポーツ振興庁内検討委員会を設置し、第2期スポーツ推進計画（R4～R8年度）の策定や今後のスポーツ施設のあり方等について検討を行い、全庁的な連携を図っている。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KSF	市民総合体育館スポーツジム利用人数	51,070人 (R元)	13,944人 (R2)						52,000人 (R7)						
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
	スポーツをすることが「好き」という割合		33.6% (H27)	32.5%(R2)					40.0% (R7)						
	課題及び次年度の方向性														
<p>・コロナ禍により団体活動が減少したため、個人に直接届く情報伝達手段が必要であると感じる。</p> <p>・コロナ禍においてもスポーツをするための、仲間づくりとして、情報を伝える手段の重要性が高まっている。（令和3年度にガーデンビーチ閉園イベント、ハンドボール関連事業において、申込フォームでの申込み対応としたところ、想定よりも多くの申込があった。）周知に加え参加申込等もオンラインで行うことへのニーズの高まりを実感している。内容や対象に併せた情報提供を工夫していく。</p>															

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する					関係課	文化・スポーツ振興課		
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
2	「観る」（環境整備）	4	1	大会等誘致によるスポーツ活動・地域交流・シティセールスの充実	A	大会を実施してもらうための誘致活動を行う 大会を誘致するための新たな施設設置の検討 本市にゆかりのあるスポーツ選手や団体と連携したPR活動 オリパラホストタウンレガシーによる交流機会の推進						新型コロナウイルス感染症拡大の中、これまでのレスリング、ハンドボール、セパタクローに加えバスケットボールB2リーグ越谷アルファーズの試合を開催。新たな大会開催ができ、トップレベルの試合を地域で観戦できる機会を提供でき、市民が生で質の高い試合を観戦することにより、スポーツに親しむきっかけづくりになった。新型コロナウイルスの状況に応じて、関連した体験教室等積極的に展開していきたい。			
			タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値			
			KSF	全国大会等大規模大会の実施回数			4回(R元)	4回(R2)					5回(R7)		
			2	スポーツを観戦できる環境の整備	B	大会を実施してもらうための誘致活動を行う 大会を誘致するための新たな施設設置の検討 本市にゆかりのあるスポーツ選手や団体と連携したPR活動 オリパラホストタウンレガシーによる交流機会の推進						東京2020大会において、コミュニティライブサイトを開催しセルビア選手団を中心に画面を通して観戦、応援する機会を予定していたが、新型コロナウイルス感染症拡大のため開催できなかった。今後は施設規模に応じた大会、イベントの誘致や施設整備、応援機会を検討していく。			
タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
KSF	市民総合体育館等での応援イベント等の開催回数			1大会(R元)	0回(R2) オリパラ延期					2大会(R7)					
KPI	タイトル			現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値					
	スポーツを会場等で観戦したことがある市民の比率			20.9%(H27)	18.3%(R2)					25.0%(R7)					
課題及び次年度の方向性															
<p>スポーツへの興味・関心を持つきっかけとして、身近な地域で試合を観る機会を充実させることは重要である。そのため今後も継続的に取り組んでいくとともに新型コロナウイルス感染症の状況に応じながら、大会開催時に合わせた体験教室や参加者同士の交流に合わせた体験や交流や市のPRの機会の充実を図っていく。</p>															

計画	基本計画	分野	8	スポーツ	基本政策	12	スポーツにより交流が活性化する				関係課	文化・スポーツ振興課			
No.	基本施策	進捗	No.	取組	進捗	具体的な取組						R3年度の成果及び効果（見込）			
3	「支える」（環境整備）	3	1	スポーツ団体等への活動支援	B	スポーツ団体との連携による初心者教室の開催 大会等の会場優先確保 富士見TOPサポーターのオリパラ後の活動充実と支援（国際理解・文化等を含む） 富士見スポーツボランティア創設等の活動及び企画・運営の場づくり						新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、団体との連携による教室等の開催は困難な状況であった。富士見TOPサポーターについては、東京2020大会後の活動機会について、スポーツ、国際、文化を中心に幅広く活動できるよう検討を進めている。市におけるレガシーとして市民協働を進めていきたい。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
			KSF	富士見TOPサポーターの大会等の活動人数		延230人 (R元)	32人(R2) オリパラ延期					延250人 (R7)			
			2	競技スポーツ向上者への支援	B	激励金等の交付 広報等でのPR等 オリンピック・パラリンピアン等トップアスリート等に接する機会の提供						令和3年度から文化活動を含めた形とし、富士見市文化芸術・スポーツ大会出場等奨励金として制度変更を行い、より幅広く交付できるようになった。これを受け、これまで対象でなかった市民も支援を行うことができている。			
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KSF	激励金の交付件数		28回 (R元)	3回(R2) 各種大会中止					30回 (R7)						
3	「レスリングのまち富士見市」の推進	B	体験教室等の実施（再掲） 各種競技大会の誘致 富士見レスリング週間の周知 日登美杯への支援						新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、体験教室や大会を開催することはできなかったが、関係団体等と継続的に情報共有をし、連携を図っている。						
			タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値				
KSF	レスリングに興味のある市民の割合		20.9%	—					30.0%						
KPI	タイトル		現状値	R3	R4	R5	R6	R7	目標値						
	スポーツに関するボランティア活動参加率		8.0% (H27)	8.0% (R2)						10.0% (R7)					
課題及び次年度の方向性															
スポーツ活動等を支えるために東京2020大会のレガシーとして富士見TOPサポーターが活躍できるようにすることが重要であり、仕組みを構築していく。															